

会津大学「アカデミックスキル 1」練習問題（担当者：苅間澤）

学籍番号 1300041

氏名

松下 稜

I. つぎの（a）～（e）は事実と意見のどちらであることを判断しなさい。

（a）東京で一戸建ての家を買うなんて、普通のサラリーマンの給料ではとても無理だ。

判断	意見
----	----

（b）（ある本について）この本は、まだ女性の社会進出に対する理解がなかった時代に、それを変えようと生涯活動した女性の物語だ。

判断	事実
----	----

（c）変化の激しい時代こそ、規範の大切さをより多くの人が理解することが重要だ。

判断	意見
----	----

（d）健康意識の高い人は、スポーツジムなどに通って、自己管理することがすでに常識となっている。

判断	事実
----	----

（e）日本語は、単語が和語・漢語・外来語から成り、表記もひらがな・漢字・カタカナを混用するという特徴がある。

判断	事実
----	----

（滝浦真人『日本語リテラシー』放送大学教育振興会，2016 年，p.136）

II. つぎの文章の（ ）にはどんな接続語を入れたら文意が通るか。 後にあげる語群から選んで入れなさい。

接続関係は接続表現を明示することによって表現しうる。（ ところが ），日本語の使用において一般的に接続表現は敬遠されがちである。（ さらに ），われわれは曖昧な接続関係を好みさえする。そしてときには、曖昧に響きあう複数の叙述や問いかけが、独自の効果を生み、名文ともなる。

（ そこで ），われわれはしばらく「美しい日本語」を忘れることにしよう。接続関係の明確な骨張った文章を正確に理解すること，（ そして ）自分でもそのような表現を作れるようになること。そのため、あえて可能なかぎり接続表現を明示し、

吟味することにしよう。それはまた、論理的な日本語の再発見でもある。

(だが), しばらくの間、二つのことを心がけていただきたい。ひとつは、自分で議論を構成するときに、意識的に接続表現を多用すること。多少日本語が拙いものになっても当面はしょうがない。接続表現を自覚するには、明示的に接続表現を用いるしかない。(野矢茂樹『論理トレーニング』1997 年、産業図書、p. 1 より)

語群 さらに そこで そして だが ところが

Ⅲ. つぎの文章の () に、「は」や「が」など、適当な助詞を入れなさい。ただし、「も」は除外する。

言うまでもなく現代小説 (は) 現在進行形です。どんどん新しい作品 (が) 書かれたり、どんどん新しい文章の仕掛け (が) 試みられたり、生み出されたりしている。小説の読者となるため (には), そういう日々更新されるルールと付き合うこと (が) 要求されるでしょう。絶えざる“小説的思考”(が) 必要となる。なかなかたいへんなことです。

(阿部公彦『小説的思考のススメ「気になる部分」だらけの日本文学』東京大学出版会、2012 年、p. 1x-x)

Ⅳ. つぎの文章で、主張の導き方は論理的に正しいか、それとも誤っているかを判断しなさい。なお、誤っている場合には、その理由を簡単に示しなさい。

誠実な人は、何事にも手を抜かないから、勤勉である。学校でも職場でも、あの人は有能だと言われる人を観察してみると、押さえるべき点はきちんと押さえ、嫌なことでも先送りせずにこなしていて、実は大変に勤勉なものである。つまり、誠実に生きることが、有能な人になるための秘訣だということができる。

判断	謝っている
理由	筆者の経験上、有能な人が誠実であることが多いと伺えるが、その逆、つまり「誠実な人が有能である」ということの論証には、素材が不足している。例えるなら、カラスは黒いが、黒い生き物全てがカラスでないのと同じである。

--	--

V. つぎの文章を読んで、要約と要旨を書きなさい。

私達には、長所と短所がある。これはどちらも誰にでもあるものだ。長所だけという人もいないし、短所だけという人もいない。私達の性質の、長所を伸ばすのがいいのか、短所を直すのがいいのか、考えてみたい。

しかし、長所と短所は別のものだろうか？ いや、そうではないだろう。長所の裏返しは短所であり、短所の裏返しは長所である。長所と短所は一つの事柄の裏表だ。「明るい」は「騒がしい」，「思慮深い」は「消極的」，「優しい」は「優柔不断」というように、程度によって長所にも短所にもなりうる。

私の場合で考えてみよう。私の長所は、集中力があることである。どんな事でも一度集中すると他のことは眼中になくなり、他のことに心を移さずに取り組むことができる。そのため、そのことが早くできたり、完成度が高いとほめられたりという良いことがある。集中できたという達成感も味わえる。一方、短所は、集中すると周りがどうでもよくなることである。家では、母の呼ぶ声が聞こえなくて注意されたり、外では、他の人に心配をかけたり、いつのまにかみんなが去って一人ぼつんと取り残されていたりしたこともある。

こうしてみると、集中力があるのは良いことだが、ところかまわず集中してしまうと、他人に迷惑をかけることにもなる。長所を伸ばせば伸ばすほど、周囲の人との溝を深めてしまうことになるだろう。だから、私の場合は、人とコミュニケーションを取る時と、集中する時をしっかり分け、それぞれの時間を確保するという対策を取るのがよいと思う。

長所はその人個人の問題で、そのことで他人が困るようなことにはならないが、短所は周囲の人との関係で決まってくるもののようだ。だから、長所を伸ばすだけだと他への迷惑が大きくなるのではないだろうか。長所を伸ばしても、孤立してしまつては、長所の良さも生かすことができない。このように考えていくと、短所を直す方がよいといえる。

(名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科『はじめよう、ロジカル・ライティング』2017年、株式会社ひつじ書房，pp. 149-150)

<p>要約</p>	<p>一般に言われている長所と短所について、それらは明確に分離はせず、むしろ表裏一体のものである。筆者について言えば、群を抜く集中力を持ち、高い評価を受けることが多い代わりに、没頭している間は周囲のことが視界に入らず、迷惑を掛けることが多いようだ。</p> <p>対策として、個人で没頭する時間と他人と協働する時間を分けることが挙げられる。</p> <p>長所を伸ばすのみでは、他人への迷惑が大きくなるだけだ。短所を直すことに注力するべきだ。</p>
<p>要旨</p>	<p>一般に長所と短所は別視点で語られる。しかし実は表裏一体のものであり、同時に考慮して他人との共存を図る試みが大切だ。</p>